

## 第1回流山市子ども・子育て会議

### 日時

平成31年4月26日（金） 午後1：30～午後3：00

### 場所

流山市ケアセンター 4階会議室

### 出席委員

吉川副会長・田邊委員・藪本委員・手塚委員・堀江委員・田中委員・鈴木委員・岡本委員・櫻庭委員・小沼委員・吉田委員

### 欠席委員

柏女委員・松本委員

### 事務局

秋元子ども家庭部長・熊井子ども家庭部次長兼子ども家庭課長・秋谷子ども政策室長・倉本主任主査・北根主事

### 傍聴者

なし

### 議題

- (1) 第2期子どもをみんなで育む計画の策定について
- (2) その他

### 配布資料一覧

資料1：流山市子ども子育てニーズ調査 調査結果報告書

資料2：【高位推計】流山市\_量の見込み

### 議事録

#### 《事務局》

定刻となりましたので、ただ今から平成31年度第1回流山市子ども・子育て会議を開催させていただきます。

議事に入る前に会議について申し上げます。本日の会議につきましては、委員

13 名中 11 名の出席となっておりますので、本会議が成立していることを申し上げます。

続いて、秋元部長よりご挨拶いたします。

《秋元部長》

子ども家庭部の今年度の仕事としまして、一つは、今、皆さんに進めて頂いている、計画の策定作りをやっていかなければなりません。そして、もうひとつは待機児童がゼロになりませんでしたので、引き続き保育所整備を行って待機児童ゼロを目指すこと。これは市長も公約に掲げていたことなので、しっかりと進めていきたいと思えます。

加えて、保育所が増えてきており、保育の質が確保できないという懸念が市民の皆様にも芽生えてきてしまっており、今年はなんとかしなければいけないということで、今年やらなければいけないところです。

それから、施設整備としまして児童センター建設に向けて、おたかの森地区と南流山地区、この二つの建設に向けて計画・設計を始めなければならないという大きな事業がございます。

加えて、10月から保育料の無償化というのがあります。保育所は勿論幼稚園との協議を進めていき、どのように対応していくかということで、やらなければいけないことなどが非常に多く、皆様のご協力を頂きながら進めていくこともあるかと思えますので、宜しくお願いします。

《事務局》

では、本日、柏女会長が欠席となっておりますので、副会長の吉川委員に議事進行をお願いします。

《吉川副会長》

それでは、議題1の「第2期子どもをみんなで育む計画の策定について」事務局より説明をお願いします。

《事務局説明》

《吉川副会長》

質問等ありますか。

《藪本委員》

P4 の問 11・12 のパートタイム・アルバイトとはなんですか。本当に保育を

必要とする方とそうでない方がいると思うのですが、分類というのはされているのですか。

《事務局》

パートタイム・フルタイムに関しては、アンケートに記入頂いた中で区分けしております。ただし、就労時間等に記載もあるので実際に保育や学童の認定の基準に落とし込んでいますので、その部分では把握できています。

《藪本委員》

その量の見込のときにデータを提示頂けるということですね

《事務局》

そうですね。

《吉川副会長》

他にありますか

《手塚委員》

学童に預けたい人が10%ずつ増えている状態で、かつ、子育てしにくいのは学童クラブのサービスが十分ではないと言っている人が相当量いるときに、具体的に何が不満なのか、内訳でみることは出来ますか。要するに、空いている時間が問題なのか、サービス面が問題なのかということです。

《事務局》

この調査にあたって、自由意見は拾えるのでそこで学童の意見があれば、意見は出てくると思います。指定管理制度というのがあって、学童運営においては、満足度調査を使っていくので、その内容を把握していくというのは出来ます。

《手塚委員》

人口の伸び方として、今、何歳がピークですか。9歳位がピークというのを記憶していますが、合っていますか。

《事務局》

年少人口の中でということでしょうか。

0歳～4歳が増えていて、そのまま学童に上がっていくので、今後そのヤマが動いていく推移が総合計画の人口推計に出ています。

《藪本委員》

このあと、保育の量の見込を算出していく中で、各項目ごとにデータの提示とか背景はご説明頂けるという理解でいいですね。今はあくまで、速報で纏めて前回のところに質問が出たところに対して補足されているということでもいいですね。

《事務局》

資料の見方もそうですし、実際、意見にとりかかるとかそういった部分のご意見を頂けると助かります。

《吉川副会長》

数値としてアンケート結果がでていますが、実際、皆さん活動されていて、本当にこんなと思うこととかありますか。私は少し疑問に思うところがあります。特に、学童はあるのではないですか。実際どうですか。

《小沼委員》

アンケート調査を取るとどうしてもこういう結果が出てしまうのかなと思っています。保育所と違うのは、利用するかしないか選べる学齢であるというのが非常に大きいことと、学校に行ってる時間があるというのが違うところです。

学童クラブもひとつの選択肢だが、希望者が全員利用するとは限らない、夏休みだけとか子どもの居場所事業も始まっていますが、別の視点も考えていかないと受け入れが難しい、本当に必要な方を入れてあげたいと常に思っていますが、人員オーバーで受け入れが出来ず、待機になってしまうのが現状です。

《藪本委員》

学童の件は保護者・PTA 会長の立場として感じているところは本当にあって、学童保育じゃなくてはいけないという選択肢、学童保育以外の選択肢をなぜ流山市は用意しないのかと思っています。同じような話が西初石小学校でも挙がっていて、120名に対して3単位の学童保育はありえないことです。

事業者は良い保育をしようと頑張ってくれているが、小沼委員が話したように、外的環境で制約条件や足枷をはめられた状態で、より良い保育をなさいと言われても、事業者としても難しいところがあるのではないのでしょうか。

夏休みだけの利用とか午後2時間だけの為に学童を利用するという選択肢、現状は学童しかないの、学童保育を選ぶしかないです。

流山市は保育とか児童の預かりというものに対して、どういう風なビジョンを持つのがとても大事だと思います。とりあえず、箱を作ればいいというよう

にしか見えないです。

計画の見直しに当たっては箱を作るだけでなく、ソフトサービスとして対応出来るのであれば、計画のなかに入れていくべきだと思うし、それができるのは、この子ども・子育て会議で出していかないと、今後、同じ議論が繰り返されてしまいます。

個人的な意見ですが、次の委員の方には、多様性のある預かり方や居場所の作り方など、選択肢の幅を広げてあげるということを計画の中に盛り込んでいくべきではないのかと思います。これは意見でもあり、子育て会議の在り方として、そうあるべきではないのかなと思います。

皆さんと一緒に考えていきたいなと思います。

#### 《櫻庭委員》

P3の「主な親族等協力者の状況」で「いずれもない」が18.9%に対して、子育ての短期支援事業「ショートステイ」の今後増えていく数値は殆ど増減がない、と出ています。

実際保育園に通って来ている方には地方出身の方が非常に多く、日常的には殆ど頼る人がいないということ、虐待まではいかないが子育てに強いストレスを感じている方の中に、自身の生い立ちの中で自分の母との関係性に悩み、今の自分の子どもとの向き合い方に悩んでいる方が見られます。

自分の親には頼れない環境にある方が非常に多いと日々感じていますが、「いずれもない」という数字を保育園だけで支えて欲しいと望まれても叶えられません。

今、流山にはショートステイの施設はなく宿泊施設は松戸市にお願いする状況です。子育てを応援するのであれば、保育園や学童だけではなく、多様な方たちのニーズに答えていくということを計画の中に入れていくことが大事かと思っています。

#### 《吉川副会長》

流山市の中で宿泊を伴う子どもを受け入れる施設を作る予定はないのですか。

#### 《事務局》

現在、予定はございません。

先程、部長からもありましたように、児童館・児童センターをおおたかの森と南流山に計画しておりますが、一時預かりの機能がある施設を作っていければと考えております。

#### 《吉川副会長》

ファミリー・サポート・センターでは宿泊はないですね。

《田中委員》

やっていないです。ただ、可能性として事業になるのはファミリー・サポートかなと思います。問題が多いです。

《手塚委員》

学童が物理的に量的に足りなさそうだと思っていたら、実は使い方が問題だったり、宿泊の件も、民間の事業者を入れて、子育て戦略のビジョンに沿ったビジネススタイルをとって頂くみたいなことをリード出来たらいいなと思っています。行政だけで解決できなければ、事業者を持っていくなど派生して、解決するための動きをするべきではないでしょうか。

《田中委員》

手塚委員の問題定義はすべてのところもあるかなと思います。

学童でいうと、小学校 4 年生以上は利用出来ないはずなのに、現実には利用している児童もいます。普段というよりも、夏休みなどは困ってると見てとれます。

自分の子どもも、4 年生になったら、日中どういう風に過ごすんだろうか、と思っています。近くに頼る人がいない場合、たとえば、まちみんに小学生が来ていると聞いた時に、やっぱりニーズがあると思うが、まちみんだけに頼ることは出来ない。

夏休みだけでも、子ども教室は小学校 1 年生までが優先で受け入れ時間も短くフルタイムには対応していません。もう少し、小さい所は「何日から受け入れます」とか「ここはこういうプログラムがあります」など複数出来れば、子どもの行ける選択肢が増えると思います。

それと、ここに児童館の関係者がいないというのが昔からの疑問で、児童館は夏休みの子どもの受け皿になってるはずですが、学童に行けない児童は言ってるはず。その意見はどうなのかというのが、昔から思ってることです。

幼稚園や保育園に行ってる間は支えがあるが、小学生はその隙間で困っている方が沢山おられます。ここが一番問題ではないかと思っています。

《吉川副会長》

午前中児童館に行くと午前中は幼児の時間だから来ないで、と言う児童館もあったと聞くので、子ども達の住み分けをする場所とか選択肢が多くないと大変だなあと感じますし、仕事をされているお母さん達が、学童にも入れず 4 年生になった時の居場所が無いと言って、個別に活動されている方もいらっしゃる

います。そういう方たちとの連携をとるとか、夏休みに子ども教室をやることによって、学童を手伝っていた方が子ども教室に人員を取られるという問題も発生します。ここは協力しあい、人材を確保するためにどうするかということを考えて欲しいです。

私もこの会議に参加して色々提言を受けて勉強させてもらって、意見を言っていますが、それによって変わったところ、変わらないところがいっぱいあると思いますが、それは言い続けていかないと変わらないと思います。訴えていかないと分からないし、担当課も問題のすべてを把握している訳ではないので、こちらで見えていることは伝えていかないといけないと思うし、それをこの会議として続けてやっていけたらいいなと思います。

#### 《鈴木委員》

八木北小学校は現在 350 名の生徒ですが、3・4 年後は 700 名になると認識しています。この状況をみるととても学童に入れるのは無理に近いです。

市としては、人口が増加したことに対して、責任をとらなければいけないし、作らなければいけないです。何もしないではなく、0 歳から 4 歳の人数がとても多いということなので、3、4 年後の先を見据えて、学童をどうにかするなり、他市を参考にするなりして、いいものを増やして頂きたいというのが一般市民の意見なので、ぜひ実現して頂きたいです。

#### 《手塚委員》

先程の数字について、それを解決しようという意見が出たら、計画に盛り込むのはこっち、解決策は違う部隊を作るといいのではないかというのが一つで、現在、まちみんというコミュニティスペースと共に、高齢者ふれあいの家の事業もやっております。この事業の目的の 1 つに多世代交流があるが、まだ 1 パターンもないので、まちみんに高齢者が入っていけるような取組にしてもらえないかということで、8 月頃から初めています。

21 組の事業者と話すことがあります、子どもが学童の件で困ってるのを知っていますので、自分たちは子どもを見ることは出来るといっていますが、子どもが集まらない状況です。

#### 《吉川副会長》

存在を知らないんですね。高齢者ふれあいの家と言っているの、そこに行っているということを知らないということです。

#### 《田中委員》

多世代にしたらいいのでしょうか。

《手塚委員》

カテゴリーの中に高齢者のふれあいと多世代のふれあいがあるなら増やしたいと、高齢者支援課も高齢者の方もこちら側も居場所が欲しいと思っているのに、課をまたぐことによってできないのはもったいないです。

以前、子ども食堂について提案をされた時に、高齢者支援課としても子どもが来るきっかけとして、お互いに孤食になりがちなので皆で食事をするということをやれたらいいみたいな話をしていました。

こういう事業は他課との連携が取れないものでしょうか。

《吉川副会長》

子ども家庭課から相談に行けるものですか。

《事務局》

ふれあいの家の件ですよね。議会の一般質問の中でも活用できないかという話は出ました。そういう方が集まる場があるとは聞いております。

多世代交流共生社会をお考えだと思いますが、子どもと高齢者を結びつける場所として位置づけられるのかなと思います。あとは子どもの居場所として位置づけられるかどうか、一時的な部分では可能かと思いますが、どうしても子どもを預かるというところをどういう風に考えていったらいいのか。遊ばせるだけでいいのか、次の食事を提供しなければいけないのか、預かる人の資格が必要なのかなど考えていかなければいけないのかなと思っており、そういう話は高齢者支援課長には話しました。

《藪本委員》

今の話の中で全体的な話として、今後、出てくる資料は数字の話しか出てこないですよ。数字も大事ですが、その中の提供の仕方の可能性としては我々がそこに言及していくべきではないですか、という話を計画の中に盛り込むべきだと思います。検討しなければならないというのは分かります。

計画の段階で、手塚委員が話していた、高齢者ふれあいの家の資源を人的資源も含めて活用していくということを盛り込めるかどうかは別にして、一個一個の中で提供の仕方、確保の仕方というのは単に箱を作るだけではないですよというところを、我々としても持たなければいけないということです。そうすると、数字をみていると35年には人口減少になりますよね。今、箱を作るはなしではないですよ。今既存の施設をどういう風に活用するのかということ、次の子ども・子育て支援総合計画の考え方の中に軸としてもつべきではないかと思えます。そういう考え方で計画を策定していく方がいいのではないのでしょうか。

《吉川副会長》

ニーズ調査報告書についてはよろしいでしょうか。

《各委員》

はい。

《吉川副会長》

では、資料2「量の見込速報値」の説明をお願いします。

《事務局説明》

《藪本委員》

私が良く把握していないかよく理解出来ていなかったのですが、32年～36年の保育事業のトータル数が下がっていく傾向ではないという話でしたが、もう一度説明をお願いしていいですか。

《事務局》

数値の話と今後の見込というか期待値と両方合わせて説明してしまったので、分かりにくかったかと思いますが、数字としては、人口推計に従って子どもの数が比例して下がっていく可能性があるということです。

もうひとつは保育の無償化という部分があり、働き方改革の部分で保育事業や幼稚園の預かりなどで保育需要が伸びてくるのではないかとということもあるのですが、これからそういう部分も見ていって、その上で、増えるのか下がるのか、それを入れていくべきだと思ってます。

《藪本委員》

単純に人口推計の数字が32年13,613人から36年12,933人で、現時点での利用意向であったり、計算式を当てはめるとこうなるという数字ですね。ここにさらに補正がかかってくるので、実際は利用意向のほうが上がってくるということが、予想できるのであれば当然数字が伸びる可能性はあるということですね。

《吉川副会長》

他にありますか。なければ、次に、前回の会議でWSの開催について検討していましたが、現時点で決まっている内容を事務局からお願いします。

《事務局》

6月2日に生涯学習センターにて開催のセントラルパークフェスタでワークショップを実施予定です。詳細は次回の会議で報告させていただきます。

また、前回の会議でご意見を頂いた、コンビニ等やおおたかの森広場でのワークショップや子育て支援センターでの意見の吸い上げについてですが、セブンイレブンジャパンには打診して説明したところ、ぜひ協力したいとお話をいただいておりますので、詳細等具体的に話を詰めていきたいと思っております。おおたかの森広場については、関係各課に話をし、了承していただいております。支援センターは詰め切れていない部分もありますが、同時進行で具体的に決めてご報告させていただきます。

《吉川副会長》

委員が改選になりますが、新しいワークショップを実施の場合は新旧委員に協力してもらえるのですか。

《事務局》

委員の方にご協力頂きながらと考えておりますので、提案させていただきます。

《吉川副会長》

その詳細は5月30日に分かりますか。

《事務局》

5月30日の会議ではセントラルパークフェスタのWSについて説明させていただきます。

《吉川副会長》

では、5月30日はセントラルパークフェスタのWSについてと、セブンイレブンジャパンとおおたかの森広場についての日程は確定できるのですか。

《事務局》

ご報告はさせていただきます。

《吉川副会長》

他にありませんか。では、以上で会議を終了します。ありがとうございました。

以上